

## Injury Alert (傷害速報)類似事例

アルカリボタン電池の誤飲によるびらん性胃炎 (No. 13 リチウム電池の誤飲による食道粘膜損傷の類似事例 6)

事例	基本情報	年齢：0歳 11か月 性別：男児 体重：8.0kg 身長：70.0cm
	家族構成	母21歳、母方祖父母
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		電池誤飲、びらん性胃炎
医療費		入院 247,650 円 外来 8,570 円
原因対象	対象名称	アルカリボタン電池 直径 11.6mm 高さ 5.4mm の円柱キッチンタイマーの内蔵電池 (図1)
	入手経路使用状況	入手経路は不明、キッチンタイマーとして日常的に使用していた
発生状況	発生場所	自宅
	周囲の人周囲の環境	遊びに来ていた2歳の従姉とキッチンタイマーで遊んでいるところを、母と祖母が目撃している
	発生年月日	2020年11月X日(水) 午後(詳細な時間は不明)
	発生時の詳しい様子受診までの経緯	2020年11月X日の夜に患児と2歳の従姉がキッチンタイマーを取り合って遊んでいるところが目撃されている。11月X+1日の朝に母が、キッチンタイマーが使用できないことから電池が入っていないことに気づき、誤飲の可能性を考えて、同日11時頃に医療機関Aを受診した。受診時、顔色良好で流涎や嘔気はなく、聴診にて吸気性喘鳴も認めなかった。胸腹部X線写真でボタン電池が胃内にあると思われたため(図2)、高次医療機関Bへ紹介となった。

<p>医療機関受診時 以降の治療経過 転帰</p>	<p>X+1日 12時 30分医療機関 Bを受診した。その際の胸部 X線写真で (図 3) は、ボタン電池は十二指腸付近まで進んでいた。受診後 2時間で全身麻酔下に上部消化管内視鏡を施行したところ、胃体中部大弯に発赤あり、胃体下部から前庭部大弯にかけて線状のびらんと発赤、ヘマチン (血液が胃酸によって変化した小茶色点) 付着を認めた (図 4)。胃内に異物は認められず、ボタン電池は小腸内に進んでいると判断され経過観察の方針となった。X+2日朝に便中にボタン電池の排泄を確認、経口摂取開始後も問題のないことを確認し、同日退院となった。</p> <p>後日、持参してもらったキッチンタイマーは、ボタン電池が収納されている部分の蓋はスライド式で、乳幼児でも容易に開閉できることが予測された。</p>
-----------------------------------	--

(a)



(b)



【図 1】 ボタン電池が入っていたキッチンタイマー

(a)裏面、ボタン電池が収納されている部分の蓋はスライド式になっている、  
(b) 蓋は軽く引くだけで容易に開いた



【図 2】 胸腹部単純 X線写真 (医療機関 A)



【図3】 胸腹部単純X線写真（医療機関B）



【図4】 上部消化管内視鏡写真  
胃体下部から前庭部大弯にかけて線状のびらんと発赤、ヘマチン（血液が胃酸によって変化した小茶色点）付着を認めた。